

農業経営収入保険 締め切り12月末まで

農業者自らが生産した農産物の販売収入全体を補償する保険で、青色申告を行う農業者であれば加入できます。公的な保険制度であり、掛金には手厚い国库補助があります。

近年、異常気象とも言える自然災害が各地で起こり、特に、昨年からは猛暑による作物の高温障害も顕著になっています。このような中、災害リスクへの備えの一つとして、収入保険の加入者は年々増加しており、全

国では10万件を突破、青色申告を行う農業者の4人に1人以上が加入しています。

自然災害だけでなく市場価格の下落、急なケガ・病気による収穫不能など、様々なリスクに対応できることから、毎年、加入者の約3割が保険金等を受取っており、安定した農業経営に役立っています。

「青色申告5年の平均」が基本ですが、加入申請時に青色申告の実績が無くとも、税務署か

らの青色申告承認申請書の写しがあれば加入できます。また、積立部分の負担が大きいという農業者には、「保険方式9割」など、初年度の掛金等支出を抑える選択肢もできました。詳しくは農業共済組合までお問い合わせください。

◎収入保険の加入をお考えの方へ

令和8年契約のお申込み期間は令和7年12月末までです。

(お問い合わせ先) 大阪府農業共済組合／NOSA－大阪

【本所】
大阪府中央区農人橋2－1－33

06(6941) 8736

【北部支所】

茨木市西駅前町10－20

072(631) 7737

【南部支所】

和泉市北田中町215

0725(92) 3313

【ホームページ】

<http://nosai-osaka.com>

QRコード



(大阪府農業共済組合提供)

今後の要望活動等を協議

経営者会議・法人協会

大阪府農業経営者会議(稲田

元正会長)、大阪府農業法人協会(藤田善敬会長)は9月22日、大

阪市内で第3回役員会・会合を開いた。府幹部職員との意見交換会やそれを踏まえた要請活動、

大阪府農業委員会大会での農産物の展示及び福祉施設への寄贈

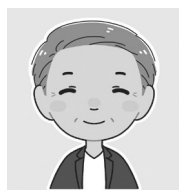
などについて活発に協議した。役員会終了後には、大阪府みどり公社より「大阪版カーボン

フットプリント」の取り組みについて情報提供があった。(沼田)

天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員

森田 彰朗



第二〇回

「続・史上1位の高温」

「記録的高温」と気象庁発表

気象庁は9月1日に今年の夏(6月から8月)の高温について発表しました。それによれば、日本の夏の平均気温は、平年値との差が+2・36℃となり、これまでの記録であった2024

年の+1・76℃を大幅に上回り、統計を開始以降、夏の最も高い記録を更新したとのことでした。

温暖化のステージが変わった

グラフをご覧ください。これは19世紀末からの日本国内の夏の気温の変化を表したものです。大きく振れているのが毎年の気温で、直線がトレンド(※)です。

ここ百年で1・38℃上昇していることを示しています。

注目して欲しいのは、グラフの右端です。2020年以降、毎年の気温がトレンドの直線から大きく上へ外れています。百年間の気温上昇とほぼ同じだけ、ここ5年で上昇するという異常な事態です。明らかに別のステージに移ったようです。

大阪でも新記録

では、大阪はどうだったのでしょうか。9月のこのコラムでご説明したように、本年6月、7月の月平均気温は過去最高でしたが、8月も過去最高で、9

月は昨年に次いで歴代2位でした。このような傾向は全国的で、関西地方だけの傾向ではないのが、逆に不気味です。

高温の原因は?

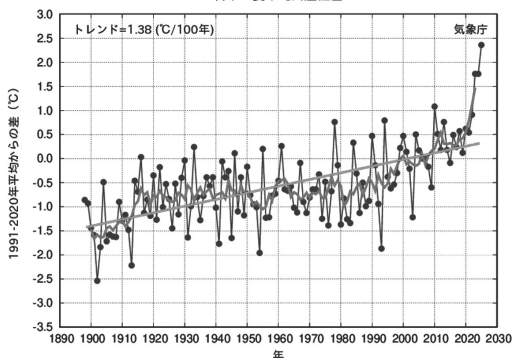
今年の夏は、海水温が平年より高く、これが気温を高くした直接の原因といわれていますが、ではなぜ海水温が高いかについては、まだまだよくわかっていないのが現状です。

ワンポイント農業気象

(11月)

急な低温と早霜注意(特に山間部)

日本の夏平均気温偏差



細線(黒): 各年の平均気温の基準値からの偏差、太線(青): 偏差の5年移動平均値、直線(赤): 長期変化傾向。基準値は1991～2020年の30年平均値。

(※)トレンドライン。単年ではなくデータ全体の傾向を示す直線のこと。